

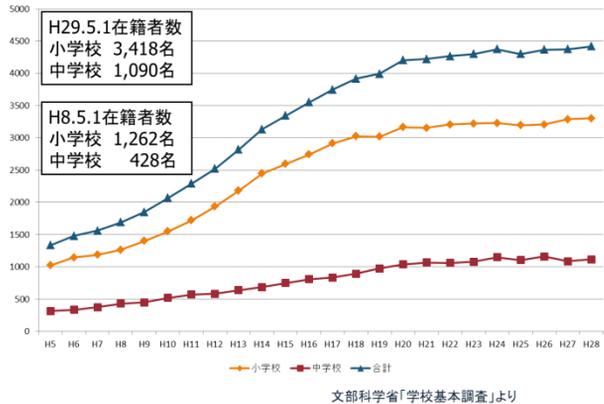
# 多様な学びの場に在籍する肢体不自由のある児童生徒の指導・支援の在り方 ～特別支援学校の専門性を活用した小・中学校等への支援～

吉川 知夫・生駒 良雄・北川 貴章

## <小・中学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒の在籍状況>

### 小・中学校特別支援学級(肢体不自由)の状況

特殊学級・特別支援学級(肢体不自由)在籍者数の推移  
特別支援学級に在籍者の増加傾向が続く、この20年で約2.6倍



### 小・中学校の通常の学級に在籍する肢体不自由のある児童生徒の状況

国立特別支援教育総合研究所平成28年度基幹研究(予備的研究)肢体不自由班

- 有効回答数 809件(回収率 46.5%)  
\*うち2件は質問項目の一部未回答
- 在籍の有無  
 在籍している : 253市区町村  
 在籍していない : 556市区町村
- 通常の学級に在籍する児童生徒数  
 小学校(通常の学級) : 902人  
 中学校(通常の学級) : 357人

注意: 本調査では学校教育法施行令第22条の3に該当することを条件にしていない  
 参考: 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課「特別支援教育資料(平成28年度)」  
 より学校教育法施行令第22条の3に該当する者の数

小学校: 359人 中学校: 216人

## 小・中学校学習指導要領(平成29年告示)総則に明記

障害のある児童などについて「特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする」。

現状は・・・

「時間や日程の制約」、「校内の人的資源の制約」、  
「手順が煩雑」、「手順が分からない」等

## <工夫ある取組の一例>

### 香川県立高松養護学校

「体と学びの相談センター」を窓口に、教育相談や相談元への訪問相談、教材貸出、公開研修会(講義、実技指導)、ホームページでの資料公開など多面的な地域支援を進めている。

本校は地域支援担当者などが、相談や支援の内容に応じて校内の教員や校務分掌から担当をコーディネートし、その担当者を支援教育部や自立活動室が中心になってバックアップすることで、学校として地域支援力の維持・向上を図っている。

### 高松市立花園小学校

香川県立高松養護学校の「ICT機器貸出及び活用相談事業」を活用して授業改善を試みた。

- ①指導目標や手立てのスムーズステップ化、障害の捉え方、自立活動の視点など、実践のポイントについて助言を得た。
- ②指導に繋げるため、保護者や他の教員の理解や協力を得る機会づくりについて助言を得た。

### 千葉県立船橋夏見特別支援学校

通級による指導を受けていた生徒の高等学校進学に伴い、在籍していた中学校と連携して、特別支援学校のセンター的機能を活用しながら、進学先の高等学校への引継ぎや支援を行っている。

## <研究の方向性>

小・中学校に在籍する肢体不自由のある子どもの学びの連続性や指導の充実に向けて、自立活動の指導を含む教科指導等の在り方や特別支援学校のセンター的機能等の地域資源を活用した授業改善の在り方について、実践事例を通じて考究する。